

第2章 八王子市の現状

1 八王子市の現状

(1) 八王子市の概要

本市は、都心から約40kmに位置し、56万の市民を擁する首都圏西部の中核都市です。四季の変化に富んだ高尾・陣馬の山並みや清らかな源流を集めて流れる浅川などの豊かな自然環境に恵まれ、八王子城をはじめとした古くからの歴史を持つ一方、市周辺地域には23もの大学等が存在し、多くの学生が学ぶ学園都市です。また、交通の要衝として先端技術産業など様々な都市機能が集積する、多様な顔を持った都市でもあります。

(2) 人口・世帯数の動態

本市の総人口は、増加傾向にあります。特に65歳以上の高齢者人口が増加しており、平成22年1月の高齢化率は20.4%で、平成17年1月に比べ3.9ポイント増加しています。世帯数においても、増加傾向にあり、平成17年1月に比べ約1万7千世帯増加していますが、1世帯当たり人員は2.27人と減少しており、核家族化が進んでいることが伺えます。

(3) 生涯学習関連施設の状況

本市には、主な生涯学習関連施設として生涯学習センター3館、図書館4館1分室、市民センター17館、子ども家庭支援センター、市民活動支援センター、夢美術館、こども科学館、郷土資料館、市民体育館をはじめとするスポーツ施設など、様々な生涯学習の場を提供し、市民の学習活動を支援しています。

2 生涯学習の状況

(1) 主な講座等の状況

主な講座等の状況をみると、生涯学習センターの講座受講者や八王子学園都市大学（いちょう塾）や生涯学習フェスティバルについては、年々参加人数が増加傾向にあります。

生涯学習センターの講座等受講者数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
受講者数(人)	26,803	28,409	38,856	34,028	38,300

八王子学園都市大学（いちょう塾）の受講者数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
受講者数（人）	2,087	4,229	5,488	6,956	7,091

平成16年9月に開学

生涯学習フェスティバルの参加者数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
参加者数（人）	193	1,674	6,316	7,279	8,018

(2) 主な生涯学習施設の利用状況

主な生涯学習施設の利用状況をみると、生涯学習センターは平成19年度以降約30万人、図書館は毎年約180万人、こども科学館は毎年約5万人、夢美術館は毎年約3万人の利用者を数えるなど、いずれの施設も多くの方々に利用されています。

生涯学習センター利用状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
利用人員（人）	184,389	210,057	208,294	301,573	304,454

図書館利用状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
入館者数（人）	1,857,200	1,815,848	1,759,688	1,799,013	1,835,739

こども科学館利用状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
入館者数（人）	53,354	45,032	51,521	49,312	62,339

郷土資料館利用状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
入館者数（人）	36,236	31,679	31,113	31,663	28,959

夢美術館利用状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
入館者数（人）	27,201	31,998	32,891	30,666	34,758

3 生涯学習をめぐる現状と課題

(1) 学習機会の充実

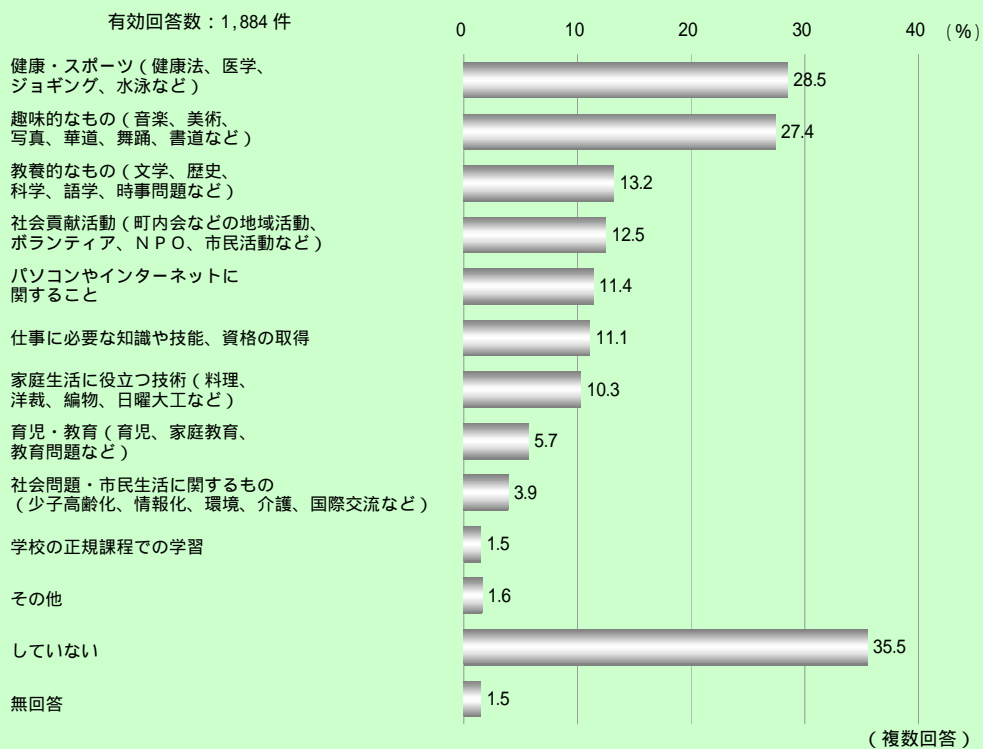
平成21年に実施した市政世論調査によると、この1年間の生涯学習活動の実施状況については、約65%の市民が生涯学習に取り組んでいます。「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」と「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道など）」が特に高くなっていますが、その一方で「していない」は約35%を占めています。

生涯学習活動をしていない理由として、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」、「経済的にゆとりがないから」、「学ぶ方法や手段、きっかけがつかめないから」の順で続いています。

また、生涯学習に対する関心度については、「関心がある」人が約67%を占めています。

今後は、学習ニーズを的確に捉え、身近な場所で生涯学習活動に参加できる機会の充実や、よりわかりやすい情報の提供など、多くの市民が生涯学習活動に取り組める環境づくりに努める必要があります。

この1年間の生涯学習活動の実施状況について



資料：八王子市「市政世論調査」(平成21年実施)より

(2) 施設の有効活用

生涯学習センターや図書館の利用は増えていますが、生涯学習活動に取り組んでいない人の割合も少なくありません。広い市域にあって限られた生涯学習施設だけでは、市民の生涯学習活動の支援が十分に行えません。今後は市民の身近にある小・中学校等の様々な施設を有効に活用していく必要があります。

そのため、数多くある生涯学習関連施設が連携を図り、市民の生涯学習活動への多角的な支援を進め、だれでもが利用しやすいものとしていく必要があります。また、図書館が持つ大きな機能を活用し、生涯にわたって読書に親しめる環境づくりと個人の読書環境をバックアップするなど、図書館サービスを充実し、「読書のまち八王子」への取り組みを推進する必要があります。



図書館でのおはなし会

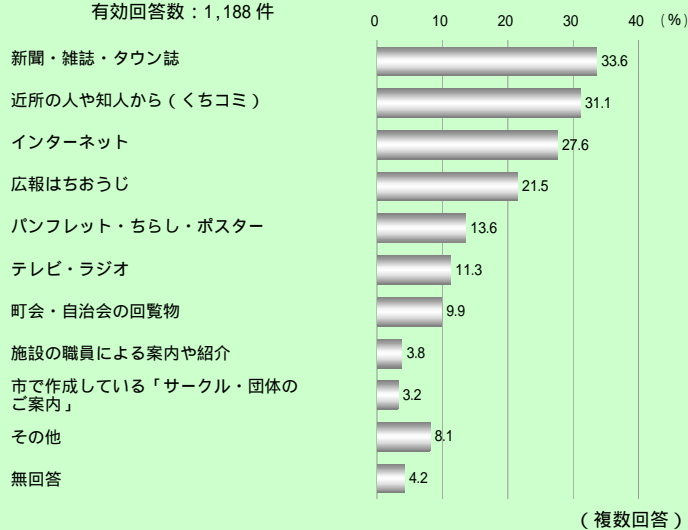
(3) 情報提供のしくみづくり

生涯学習活動の情報を知った方法については、「新聞・雑誌・タウン誌」と「近所の人や知人から（くちコミ）」が高く、ついで「インターネット」と「広報はちおうじ」が続いています。また、生涯学習活動の推進のための取り組みについては、「生涯学習についての情報提供（情報の一元化や窓口での相談体制）の充実」の割合が高くなっています。

生涯学習活動の情報収集の方法は様々であり、今後も、広報はちおうじやホームページなどの活用を図るとともに、情報の一元化を進め、市民のだれでもがわかりやすく、入手しやすい情報を提供するしくみづくりが必要です。

生涯学習活動の情報を知った方法について

有効回答数：1,188 件



資料：八王子市「市政世論調査」(平成21年実施)より

(4) 人材の育成

これから生涯学習活動を行おうと考えている市民や、自主的に生涯学習活動を行っている市民を支援するために、支援者となるための新たな人材を発掘し、育成することが必要です。それには、様々な分野、幅広い年齢層の方々に活躍していただくことが求められています。

また、専門性を有するボランティアの養成やボランティア活動の支援体制を充実し、ボランティア活動への参加を呼びかけていくことが重要です。



生涯学習コーディネーター養成講座

(5) 社会参加の促進と学習成果の社会への還元

次代を担う子どもを育てる家庭教育への支援や、高齢者や障害者の社会活動への参加はボランティアの関わりが大切となります。また、多くの市民が生涯学習活動に参加できるよう、リーダーやコーディネーターの育成も重要です。市民の社会参加を促進し、学習の成果を地域及び社会にいかしていくことのできる環境を整備していく必要があります。

